

曇りがち、でも

産業天気図2011

ーだけでなくリーマン・ショックでダメージを受けた中堅ディベロッパーも開発を再開している。不動産経済研究所は11年の首都圏マンション供給戸数を5万戸前後と予想する。

市場回復の原動力となった住宅ローン減税や贈与税非課税枠の拡大といった政府の住宅取得支援政策は11年から段階縮小されるが、その影響は小さいとの見方が強い。ただ、これまでの市場回復は首都圏の富裕層向けが中心だった。地方圏のマンション市場が本格回復に向かうかは未知数だ。

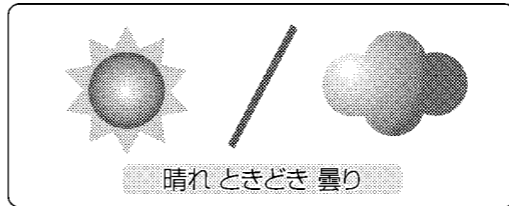
運輸 中国経済の行方次第

2011年の海運業界は昨年みせた業績のV字回復の流れを今年で維持できるか問われる。リーマン・ショック以降、世界的な荷動きの減少で海運業界は大打撃を受けた。しかし、運航隻数の迅速な縮小やコンテナ船市況の回復で昨年は業績を大幅に改善させた。中国の鉄鉱石需要が好調なことに加え、アジアから北米・欧州に向かうコンテナ船の市況回復が大きい。11年もこうした傾向は変わらないと予想されるが、中国経済の行方次第で業績が下がる可能性もある。

航空業界では日本航空の経営再建が順調に行くかが注目。予定では3月末までに更生計画を終えるが、変動幅の大きい航空業界だけに予算を許さない。また、全日本航空が1月にも設立する格安航空会社も話題で、業績への奇も注目だ。

建機 新興国市場開拓力ガ

油圧ショベルやホイールローダー(土砂積み込み機械)は中国やインドネシアなど新興国で好調な需要が2011年も続く見通し。世界総需要の半分を占める中国の11年度の油圧ショベル総需要が10年度見込み比約15%増となり、世界総需要台数も同10%増と、ピークだった07年度の22万台を超えて過去最高となりそう。この需要増を取り込もうと、コマツや日立建機などは新興国で増産投資や販売サービスの拡大に動く。一方、クレーン業界は主力市場だった米欧の需要低迷が続くため、厳しい戦いが続きそう。ただ「クレーンの景気の波は油圧ショベルの約1年遅れ」とされる。コベルククレーンや日立住友重機建機クレーンが中国で大型クレーン・クレーンの生産に乗り出すなど需要増が見込める新興国の市場開拓が業績回復のカギを握る。



デジカメ 一眼レフは安定成長

2011年のデジタルカメラ業界は一眼レフとコンパクト型で明暗が分かれる。キヤノンとニコンが世界市場を二分する一眼レフは新興国での需要拡大が継続し、安定成長を予想する声が多い。一方で、参入メーカーの多いコンパクト型は世界全体で需要は伸びるものの、景気回復の遅れる米欧や新興国での激しい価格競争で各社利益なき繁忙に陥りかねない状況だ。

オリンパスやカシオ計算機などコンパクト主体のメーカーを中心に、業界再編が起こる可能性も捨てきれない。10年から本格的に市場の立ち上がりつつあるミラーレス一眼カメラ。小型軽量を特徴に、一眼レフの牙城を脅かす勢いは今年も続くと思われる。参入をうわさされるニコンなどが加われば、さらに市場は盛り上がりそう。

ロボット 回復基調 昨年上回る

産業用ロボットは回復基調が続きそう。2011年は10年も上回る」と日本ロボット工業会は予測する。生産金額ベースで10年比10%の成長率が期待されている。成長のけん引役は海外。中国、中南米と

いった新興諸国で自動車関連の設備投資が活発になると予想され、溶接や塗装用ロボットの需要が拡大する見通し。米ゼネラル・モーターズの復活も好材料だ。日本の自動車各社は国内の生産投資を控えており、11年から投資を再開することになれば、市場は大きく回復しそうだ。

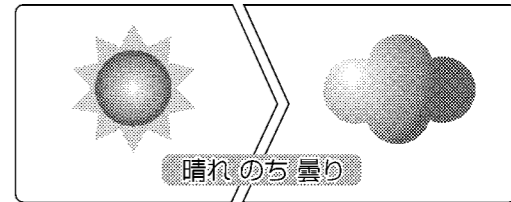
家電業界でもロボットの引き合いが強まりそう。スマートフォン(多機能携帯電話)の販売好調を受け、電子部品実装機や半導体、液晶工場向け搬送ロボットが高水準の受注で推移するとみられる。

家電業界でもロボットの引き合いが強まりそう。スマートフォン(多機能携帯電話)の販売好調を受け、電子部品実装機や半導体、液晶工場向け搬送ロボットが高水準の受注で推移するとみられる。

合成繊維 フィルムの伸長確実

2011年の合成繊維業界は、需要回復を背景に堅調に推移しそうだ。主力の樹脂事業やフィルム事業は、家電エコポイントの縮小やエコカー補助金の終了が国内需要に影を落とすが、新興国市場の伸びが支えされると見られる。液晶テレビなど薄型ディスプレイ(FPD)向けフィルム需要が伸びるのは間違いなく、各社は積極的に設備増強に乗り出し、攻めの姿勢を取る。

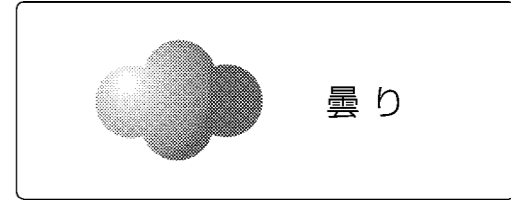
合成繊維では、各社は生産集約や高付加価値化など事業構造改革を済ませた。11年には海外市場開拓を強化するなど、収益拡大を図る。一時期落ち込んだ炭素繊維も需要は回復しており、さらなる成長が見込まれる。一部の経営者からは世界経済の先行き不透明感を懸念する声もあるが、全般的に需要の拡大が期待されている。



化学 上期好調も下期鈍化

2011年上期は好調なアジア経済に支えられて、海外での石油化学事業は堅調に推移する一方、下期の世界経済の動向を不安視する声が多い。好調な上期とやや鈍化する下期という予想が妥当だ。

上期に各社の業績をけん引するのは、アジア市場で競争力のある石油化学製品。三菱化学のポリエステル繊維原料のテレフタル酸や三井化学の自動車・電子部品などに使うフェノールなどだ。各製品ともアジア市場で高いシェアを持っており、需要も旺盛。石油化学製品の基礎原料となるナフサの国際市況の高騰がやや気になるが、十分価格転嫁できる水準にある。下期は「懸念材料が散見されるため、先行きを読み切れない」(総合化学大手幹部)との声が多く、やや減速気味で推移する可能性が高い。



電力 回復ペース落ち懸念

電力は需要が回復傾向にあるものの、回復ペースが落ちているのが懸念材料だ。需要の半分を占める大口電力需要は、リーマン・ショック以降、落ち込んでいたが、2010年に入って前年同月比プラスを維持している。だが、絶対量で見るとリーマン・ショック前の水準には戻っていない。11年にはその水準に達すると期待されているものの、景気回復の足踏みが続けば、その分、大口電力需要の回復も遅れることになる。

昨年は夏の猛暑で、家庭用の冷房需要が急増し、各社の売り上げを押し上げた。ただ、その分伸びた需要分を発電コストの高い火力で対応したため、原子力の稼働率が低い会社は収益を圧迫する結果になった。その差により、電力10社の11年3月期決算予想は経常利益で増益、減益が半々と明暗が分かっている。

日本の産業界の2011年天気図は、どうも曇りがちだ。10年は円高などの暗雲が立ちこめていた一方で、エコカー補助金、エコポイントなどが景気を温めた。これらに代わる好材料はどこにあるのか。ここでは11年の各業界の雲行きを占ったが、もちろん企業は今日・明日に光が差し込んでくる先を探しているだけではない。10年後、20年後の明るい未来を見通す力が求められている。

ンのほか、タブレット端末や電子書籍など非通話端末の普及が拡大する見通し。次世代無線通信規格「LTE」のサービスをNTTドコモが年末に始めるなど高速サービスにも注目が集まる。書籍や動画などコンテンツの充実と相まって、モバイル端末を対象としたデータ通信サービス需要が急拡大する環境が整いつつある。

一方、音声収入は減少傾向が続きそう。昨年11月、KDDIが無料のインターネット電話「スカイプ」を開始。また同12月にはソフトバンクの支援で経営再建を進めるPHSのウィルコムも固定電話・他社携帯への通話無料を実現する「だれとでも定額」を始めており、値下げ合戦につながる可能性がある。

2011年のパソコン市場も米アップルが主役となりそう。10年春に同社から発売された新型タブレット端末「iPad(アイパッド)」は従来のノートパソコン需要を侵食し、同業他社が相次ぎタブレット製品を投入する流れも創った。11年春にはアイパッドの新モデル発売がうわさされ、タブレット市場のさらなる拡大は確実だ。

一方で、調査会社の米ガートナーが11年の世界パソコン出荷予測を前回比2.2%減の15.9%成長(4億900万台)へ下方修正。台頭するタブレット端末やスマートフォンが従来のパソコンの役割を代行し始めたのが主な要因だ。世界のパソコン大手各社は11年も強気の販売計画を立てており、需給のギャップは半導体やハードディスク駆動装置など関連産業へもマイナス影響を与えそう。

パソコン タブレット市場拡大

2011年のパソコン市場も米アップルが主役となりそう。10年春に同社から発売された新型タブレット端末「iPad(アイパッド)」は従来のノートパソコン需要を侵食し、同業他社が相次ぎタブレット製品を投入する流れも創った。11年春にはアイパッドの新モデル発売がうわさされ、タブレット市場のさらなる拡大は確実だ。

一方で、調査会社の米ガートナーが11年の世界パソコン出荷予測を前回比2.2%減の15.9%成長(4億900万台)へ下方修正。台頭するタブレット端末やスマートフォンが従来のパソコンの役割を代行し始めたのが主な要因だ。世界のパソコン大手各社は11年も強気の販売計画を立てており、需給のギャップは半導体やハードディスク駆動装置など関連産業へもマイナス影響を与えそう。

2011年のパソコン市場も米アップルが主役となりそう。10年春に同社から発売された新型タブレット端末「iPad(アイパッド)」は従来のノートパソコン需要を侵食し、同業他社が相次ぎタブレット製品を投入する流れも創った。11年春にはアイパッドの新モデル発売がうわさされ、タブレット市場のさらなる拡大は確実だ。

一方で、調査会社の米ガートナーが11年の世界パソコン出荷予測を前回比2.2%減の15.9%成長(4億900万台)へ下方修正。台頭するタブレット端末やスマートフォンが従来のパソコンの役割を代行し始めたのが主な要因だ。世界のパソコン大手各社は11年も強気の販売計画を立てており、需給のギャップは半導体やハードディスク駆動装置など関連産業へもマイナス影響を与えそう。

マンション 首都圏の回復継続

2010年春以降、マンション市場は回復が鮮明になっており、11年もその傾向は続きそう。10年の首都圏マンション供給戸数見込みは4万3000戸台と、08年の水準をほぼ回復するようだ。現在では大手ディベロッパー

情報サービス クラウドのパイ争い

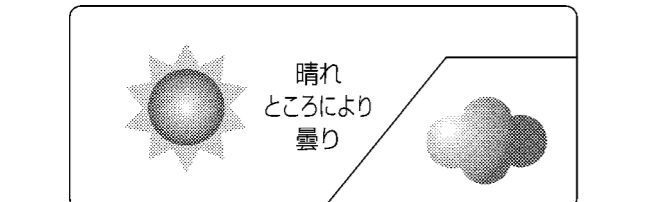
情報サービス業界は国内のIT投資に今後大きな伸びは見込めず、厳しい状態が続く。ただ2011年のIT投資は10年を上回るとの予測もでており、各社が力点を置くネットワーク経由で情報システムを利用するクラウドサービスにIT投資が向かうケースはさらに増えるとの見込みがある。クラウド事業の売上高を伸ばすことが回復するパイの奪い合いには不可欠だ。クラウド以外では、国際会計基準(IFRS)対応やBI(データの分析・活用)などの需要が高まると見られる。

また、アジアを中心にグローバル展開する各社の動きが加速する。顧客の現地法人だけでなく、現地企業にも手を伸ばせるかが成功のカギとなる。円高を追い風に、NTTデータによる米キーン買収のように、海外企業を買収するケースが増えることも見込まれる。

重電 新設案件めじろ押し

日本電機工業会の統計によると、2010年11月の重電機器の受注額は、前年同期比3.4%増の1兆4184億円。内需がマイナスなのに外需は2ケタ成長で、この傾向は11年も続きそう。製品別ではインバーターなど電力変換装置が約4割の伸び。省エネルギー化に欠かせないインバーター需要は、今後成長が期待できる。

世界各国で太陽光発電など新エネルギーの導入意欲は依然強く、関連装置にとって追い風。また電気自動車の立ち上がりで、駆動モーターなど新しい需要も顕在化しつつ。大型プラント関連では新興国で電力設備の新設案件がめじろ押し。原子力の話題性は高いが、基幹電源としては火力の方が先。タービン・発電機やボイラの生産は高水準で推移する。



工作機械 海外シフト一層加速

先が見えない地吹雪の状況から脱した2010年の工作機械業界。中国の旺盛な需要がけん引し、10年11月受注額も前年比2.5倍と09年の底からV字回復した。11年も外需が高い水準でリードする「外高内低」は続くが、全体感としては晴れと曇りという状況だ。

外需の4割を占める中国は快晴が続く、米国、欧州も晴れてくる。ネックとなるのは円高基調。国内製造業の海外シフトは一層加速し、内需の盛り上がりは期待できない。新興国市場では競合する欧州メーカーと価格競争が激化を来している。ただ国内製造業も先端の技術開発案件があり、設備の老朽化も指摘されている。「円安」に振れば、国内投資も息を吹き返してくる。快晴になる可能性も十分にある。

非鉄金属製錬で収益改善

非鉄金属製錬は主力の金属製錬事業で収益改善が期待できる。過去2年は中国など新興国や資源メジャーの台頭で銅鉱石が高騰し購入(買鉱)条件の悪化に悩まされたが、ここきて銅鉱石需給が緩和している。日本の非鉄も前年度よりは有利な買鉱交渉を進められるため、製錬収益は好転すると見られる。

また、電子材料も自動車、電機向けがけん引し堅調に推移しそうだ。10年秋にエコカー補助金やエコポイント制度など政府の消費刺激策により需要が急増し、一時は反動で一服したが「中長期的に見れば底堅い需要は見込める」(日本伸銅協会)。ただ、一方で設備投資需要のウエートが大きい産業機械や、建材向けは依然低迷中で産業用途別の二極化は残る。

移動体通信 非通話端末、普及

移動体通信業界は、データ通信サービス分野の伸びが期待できる。同サービスの利用が多いスマートフォン



半導体 3寸先、に好転の兆し

パソコン需要の停滞で、半導体の指標とも言われるDRAM市況の先行きが読めない状況が続く。日本で唯一のDRAMメーカーのエルピーダメモリーを筆頭に、2010年12月期に半導体各社の収益は急ブレーキがかかったが、年明け以降も不透明感はぬぐえない。ただ、「一寸先は闇かもしれないが、3寸先は見えている。一部で明るい兆しはある」(東芝の小林清志執行役員上席常務)。パソコン向けを除けば、来年の市況への悲観的な見方は少ない。

特に、スマートフォン需要の伸長は続き、NAND型フラッシュメモリの需給は引き締まった状態が続く。また、産業機械や家電向けの省電力効果があるパワー半導体も市場が急拡大しており、各社、能力増強を急ぐ構図は変わらない。

造船 バラ積み船がけん引

造船は、中国やインドなど新興国向けの海上荷動きが活発化していることを背景に、受注が回復している。高い経済成長を示している新興国では石炭や鉄鉱石などの資源需要が拡大。これら運ぶバラ積み貨物運搬船(バルクキャリア)の需要が高まっている。新興国向けのバルクキャリアが造船受注をけん引する傾向は2011年も続きそう。

だが、円高が懸念材料。中国や韓国との国際競争で、円高は不利に働く。日本の造船業は円建て契約が80%を超えていたが、急激な円高を受けて同契約は50%を下回った。現在の為替水準では為替差損が発生する可能性が高い。日本の造船業は2年半の受注残高を持つため、無理に受注しなくても済む。為替が落ち着くまで、受注を見合わせる局面も考えられる。

〈応募対象〉
2010年3月1日〜2011年2月20日の新聞に掲載された記事。
※新聞広告や記者からの投稿は除きます。2011年2月21日〜28日のHAPPY NEWSに開してのみの応募を受け付けます。
〈応募方法〉
郵送、インターネット
〈応募締め切り〉※当日消印有効
2011年2月20日(日)
50人に記念品を差し上げます。
なお、記念品は当選者の発表をもって代弁させていただきます。

新聞を読んで、毎日の暮らしの中であなたを最もHAPPYな気持ちにした記事と、その理由を書いて応募ください。キラリと光るコメントをお寄せいただいた方に賞品を差し上げます。

新聞を3日間の配布物に行います。
※選んだ記事は新聞を印刷する際、欄外に「コメント」を添付していただく必要があります。コメントを新聞に掲載するかどうかは編集部が判断します。コメントは郵送してください。

〈応募要領〉
▽対象期間中のHAPPYになった記事の切り抜きを同封のうえ、
▽記事の掲載日、掲載紙名、朝夕刊の別
▽HAPPYになった理由(400字以内)、
▽郵便番号、▽住所、▽お名前、▽年齢
▽性別、▽職業、▽学校、▽学年、▽電話番号を
書いて応募ください。インターネットで書ける際も、記事の切り抜きを別途郵送してください。
※いただいた個人情報は当キャンペーン以外での利用は致しません。

〈賞〉
日本新聞協会が応募された記事とコメントを審査し、
次のとおり賞を贈ります。
「HAPPY NEWS 大賞」
賞状と30万円相当の副賞
「HAPPY NEWS 一般」
賞状と10万円相当の副賞
「HAPPY NEWS 小学生・中学生・高校生」
賞状と2万円相当の副賞
各3件
あわせて今年度のHAPPY NEWSを象徴する人物数人に「HAPPY NEWS SPERSON」を、全校での応募、職場や家族全員での応募などユニークな応募の中から、特別賞を選びます。結果発表は2011年4月上旬の新聞紙面、日本新聞協会ウェブサイトに、「新聞を3日間の配布物に行います。」
※選んだ記事は新聞を印刷する際、欄外に「コメント」を添付していただく必要があります。コメントを新聞に掲載するかどうかは編集部が判断します。コメントは郵送してください。

あなたをHAPPYにした新聞記事を送ってください。
HAPPY NEWS 2010 募集中!

新聞を読んで、毎日の暮らしの中であなたを最もHAPPYな気持ちにした記事と、その理由を書いて応募ください。キラリと光るコメントをお寄せいただいた方に賞品を差し上げます。

新聞を3日間の配布物に行います。
※選んだ記事は新聞を印刷する際、欄外に「コメント」を添付していただく必要があります。コメントを新聞に掲載するかどうかは編集部が判断します。コメントは郵送してください。

〈応募要領〉
▽対象期間中のHAPPYになった記事の切り抜きを同封のうえ、
▽記事の掲載日、掲載紙名、朝夕刊の別
▽HAPPYになった理由(400字以内)、
▽郵便番号、▽住所、▽お名前、▽年齢
▽性別、▽職業、▽学校、▽学年、▽電話番号を
書いて応募ください。インターネットで書ける際も、記事の切り抜きを別途郵送してください。
※いただいた個人情報は当キャンペーン以外での利用は致しません。

みつめて。青空みたいなニュース。

HAPPY NEWS 2010 募集中!

新聞を読んで、毎日の暮らしの中であなたを最もHAPPYな気持ちにした記事と、その理由を書いて応募ください。キラリと光るコメントをお寄せいただいた方に賞品を差し上げます。

新聞を3日間の配布物に行います。
※選んだ記事は新聞を印刷する際、欄外に「コメント」を添付していただく必要があります。コメントを新聞に掲載するかどうかは編集部が判断します。コメントは郵送してください。

http://www.readme-press.com

